

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業（精神障害分野））
被災地のアルコール関連問題・嗜癪行動に関する研究
（研究代表者 松下 幸生）

平成 25 年度分担研究報告書
被災地のアルコール関連問題の実態把握と介入の技術支援
研究分担者 杠 岳文 独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター 院長

研究要旨：われわれの主な研究目的は、被災地住民の飲酒実態の把握、被災地で被災者の健康管理にあたる保健師など支援者への飲酒量低減技法（ブリーフ・インターベンションと集団節酒指導）指導の技術移譲と効果検証、被災者に配布する「アルコールとうつ」に関する啓発小冊子の作成である。二年度目の本年度は、被災地釜石市に赴きわが国のアルコール問題の現状と飲酒量低減指導に関する研修会を開催するとともに、支援者のアルコール問題対策として被災者の支援に当たる職員で危険な飲酒あるいは有害な飲酒の疑われる者（延べ 24 名）を対象に飲酒量低減指導を実施し、地元の保健師（延べ 42 名）に技術移譲を試みた。また、被災地域住民に対しアルコール問題とうつ病を啓発する小冊子「からだところの健康～うつとアルコール～」を作成し配布した。啓発用小冊子では、うつ病の症状や薬物治療、認知行動療法について平易に解説すると同時に、平成 14 年と平成 25 年の健康調査（健康かまいし 21）に含まれている飲酒状況に関する調査結果を分析し、多量飲酒者（1 週間に日本酒換算 21 合以上の飲酒者）の出現頻度が平成 14 年 2.77%で、平成 25 年 2.94%と若干増加はしているが、有意差には至らないことを述べた。最終年度は、過量飲酒者に対する二次予防と同時に被災地域住民や医療従事者に対しアルコール問題の啓発、教育を行う計画である。

研究協力者

石丸正吾：花巻病院 副院長
阿部祐太：花巻病院 精神保健福祉士
角南隆史：肥前精神医療センター 医師
岩崎優子：肥前精神医療センター 看護師長
壁屋康洋：肥前精神医療センター心理療法室長

においても、その健康、機能、活力を失わせ、被災地域復興の妨げにもなると懸念される。

われわれは、被災地におけるアルコール問題の実態を把握するとともに、被災地住民のアルコール問題に対する有効な二次予防としての介入技法を検討し、実践し効果検証することを研究目的とした。

A. 研究目的

東日本大震災の被災地では、その心理的ストレス、失職、あるいは仮設住宅への転居など生活環境の変化から、被災者のみならず支援に当たる立場の者にも飲酒量の増加が懸念されている。また、阪神大震災での経験から、これまで事例化していなかった潜在的なアルコール依存症患者が、仮設住宅のように密集して建てられ、また周囲の目も届きやすい構造や環境の中で顕在化することも懸念されている。飲酒量が一定量以上に増えると身体への健康被害のみならず、交通事故などの事故やうつ病などの精神的な不調、人間関係、家庭内や職業上の問題にまでその害が及び、個人、家庭、職域いずれ

二年度目の本年度は、具体的に 1) 被災地釜石市で直接住民の健康管理にあたる保健師、看護師などを対象にアルコール問題の現状と飲酒量低減指導（ブリーフ・インターベンションと集団節酒指導）に関する研修会を開催し、2) 被災者の支援に当たっている者で、危険な飲酒あるいは有害な飲酒にあたる飲酒者に対して、飲酒量低減指導をわれわれが実施し、支援者のアルコール問題の二次予防と保健師し飲酒量低減指導技法の技術移譲を目指した。3) また、被災地域住民にアルコール問題とうつ病を啓発する小冊子「からだところの健康～うつとアルコール～」を作成した。

B．研究方法

被災地での飲酒量低減指導

今年度は、被災地釜石市で被災者の健康管理に携わる保健師に対して飲酒量低減指導の技術移譲を行うための研修会を4回に亘って行った。

- 第1回目の釜石市訪問調査・支援活動 5月16日～18日（杠、石丸、角南、阿部）

5月17日：平成25年度釜石アルコール早期介入研修会には、釜石地区の保健師18名が参加したが、半数の9名は今年度からの配属であった。

10時～12時：アルコール使用障害の現状と予防についての講義

13時30分～13時45分：ブリーフ・インターベンションのコツについて講義

13時45分～15時：ロールプレイ（二人一組）

15時～15時30分：まとめ

- 第2回目の釜石市訪問調査・支援活動 9月5日～7日（杠、石丸、阿部）

9月5日 16：30～18：00：被災者の支援に当たり危険な飲酒あるいは有害な飲酒が疑われる職員6名に対するHAPPYプログラムを用いた集団での節酒指導の実演及び市保健師5名の見学及び市保健師への介入技法の解説

9月6日 13：00～14：30：被災者の支援に当たり危険な飲酒あるいは有害な飲酒が疑われる職員5名に対するHAPPYプログラムを用いた集団での節酒指導の実演及び市保健師1名の見学及び市保健師への介入技法の解説

- 第3回目の釜石市訪問調査・支援活動 10月24日～26日（杠、石丸、阿部、岩崎）

10月24日 16：30～18：00：被災者の支援に当たり危険な飲酒あるいは有害な飲酒が疑われる職員9名に対するHAPPYプログラムを用いた集団での節酒指導の実演及び市保健師9名の見学及び市保健師への介入技法の解説

10月25日 10：00～11：40：被災者の支援

に当たり危険な飲酒が疑われる職員1名に対するHAPPYプログラムを用いた節酒カウンセリングの実演及び市保健師7名の見学及び市保健師への介入技法の解説

- 第4回目の釜石市訪問調査・支援活動 12月19日～21日（杠、石丸、阿部、壁屋）

12月19日 17：30～19：00：被災地地域住民に対するHAPPYプログラムを用いた集団での節酒指導を予定していたが、予定していた参加者の来所なく、市保健師2名と研究計画について打ち合わせ。

12月20日 13：30～15：00：被災者の支援に当たり危険な飲酒あるいは有害な飲酒が疑われる職員3名に対するHAPPYプログラムを用いた集団節酒の実演及び市保健師2名の見学及び市保健師への介入技法の解説。

被災地地域住民向けの啓発用小冊子の作成

今年度は、被災地地域住民向けの「からだところの健康～うつとアルコール～」全12項を作成した。内容は、うつ病のスクリーニングテストや診断基準を用いながら症状について平易に解説し、薬物治療や認知行動療法についても触れた。アルコール問題については、釜石市で震災前後の平成14年と平成25年に行われた健康調査（健康かまいし21）に含まれている飲酒状況に関する調査結果を紹介した。また、過量飲酒による健康被害や節酒のコツについて簡単に触れ、詳細は研究分担者が作成した教育用小冊子「知っていますか？アルコールのこと」を参照するよう勧めた。

C．研究結果

今年度は、被災地釜石市において研修会と同時に、集団節酒指導の実演を被災者の支援に当たり危険な飲酒あるいは有害な飲酒が疑われる職員を介入の対象にして行い、支援者のアルコール問題の二次予防とともに飲酒量低減指導の技術移譲を行った。保健師延べ42名が研

修に参加し、被災者の支援に当たり危険な飲酒あるいは有害な飲酒が疑われる職員延べ 24 名が飲酒量低減指導を受けた。

また、「からだところの健康～うつとアルコール～」を作成するに当たり、震災前後の平成 14 年と平成 25 年に釜石地区で行われた健康調査の中の飲酒調査の分析を行った。平成 14 年の調査(無作為抽出 4,000 人、回収率 41.4%)と平成 25 年に行われた調査(無作為抽出 4,000 人、回収率 30.6%)で 1 週間に日本酒換算で 21 合以上の多量飲酒をする者の割合は、平成 14 年調査時が 2.77%で、平成 25 年が 2.94%と若干増えているようにも見えるが、有意差は認めなかった。

D . 考察

今年度は、アルコール問題のわが国の現状と飲酒量低減指導に関する研修会を開催するとともに、主に被災者の支援に当たる職員で危険な飲酒あるいは有害な飲酒が疑われる者を対象に飲酒量低減指導を実演し、技術移譲を試みた。被災地地域住民を対象とした飲酒量低減指導も試みようとしたが、地域住民で飲酒量低減指導に関心を向けるものは少数見られたが、実際に参加する者はいなかった。被災地域でアルコール問題の二次予防を行う際も、過量飲酒は健康被害をもたらすこと、飲酒量低減はそれ程無理なくできること、飲酒量低減によって様々な健康被害のリスクを低減できることなどを予め啓発する必要があることを改めて認識した。最終年度は、被災地域の医療従事者や被災地域の住民に対する啓発活動を行いながら、飲酒量低減指導の被災地域での普及と保健師など支援者への技術移譲、さらには飲酒量低減指導の効果検証に努めたい。

E . 研究発表

1 . 論文発表

杠岳文：HAPPY を習得して大いに活用しよう。九州アルコール関

連問題学会誌 12(1): 62-65 , 2013

角南隆史、武藤岳夫、杠岳文：アルコール使用障害の早期介入。精神科治療学 28(11): 1479-1484 , 2013

中島薫、杠岳文：アルコール問題の早期介入と動機づけ面接。精神科治療学、第 28 巻増刊号: 112-115 , 2013

角南隆史、杠岳文：初期問題飲酒者に対する早期介入 HAPPY プログラム。精神科治療学、第 28 巻増刊号: 116-121 , 2013

2 . 学会発表

杠岳文：今日からできる！アルコール依存症の予防介入 プリーフ・インターベンション。第 4 回プライマリ・ケア連合学会学術集会。宮城県仙台市、仙台国際センター、5.18、2013

杠岳文：アルコール使用障害に対する節酒指導 プリーフ・インターベンション。第 109 回日本精神神経学会学術総会ワークショップ 15 依存症の診断と治療。福岡県福岡市、福岡国際会議場、5.24、2013

杠岳文：働く人のアルコール問題とその予防 さあ始めよう！節酒指導。第 35 回日本アルコール関連問題学会。岐阜県岐阜市、長良川国際会議場、7.20、2013

杠岳文：職場におけるアルコール問題対策 HAPPY と集団節酒指導プログラム。平成 25 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会、岡山県岡山市、岡山コンベンションセンター、10.5、2013

杠岳文：アルコール問題と自殺 その現

状と対策 . 第 26 回九州・沖縄社会精神医学セミナー . 佐賀県佐賀市、佐賀大学医学部附属病院、2.1、2014

なし
2 . 実用新案登録
なし

F . 知的財産権の出願・登録状況

1 . 特許取得